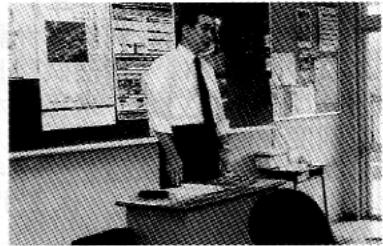


東 京 聖 高



〈先輩から後輩へのメッセージ〉



創立記念日事業の一環として毎年実施している昨年の記念文化講演は、城岳同窓会主催で『先輩から後輩へのメッセージ』をテーマに、各分野で活躍中の38名の先輩方が各クラスで、講話を実施した。

生徒の感想から（学年は昨年の学年を示す）

【1年】

1、遠回りしても、自分の夢は見つかり、それは自分の努力があれば「叶うものである」ということが分かった。

(1-1 知念優奈)

2、先生は、一人の奥さんとなりつつ、進学という夢をあきらめないで、36歳に大学に進んだと聞き、すばらしいなと思いました。主婦、子供、勉強、琉球舞踊というたくさんの両立をこなし、周りの若い人達の輪に入り、生き生きと過ごし披露しています。小さくてかわいい節子先生のように輝きを失わない人になりたい。(1-2 28番)

3、このようにいつもはなかなか聞けない目上の方のお話を聞けて本当によかったです。また、このような機会を作って下さい。(1-8 柴田一郎)

4、留学とは、他国のこと以上に自国のこと学ばないといけないと考えさせられました。例えば、国語や社会も。

(1-9 松田せつ子)

5、プラス思考や前向きな考え方、積極性、テーゲーさ、感情などいちいち納得せられるような会長だからできるのだろう。

(1-10 具志奈名子)

6、将来考えている職業について調べたりして、自分の夢と興味を持つことから始め、それが大人になって役に立つよう計画的に進んでいくのが大事だと思った。

(1-11 川上ちえみ)

7、自分を変えてくれた本が2冊あるといつてくれた古堅さんがうらやましく思いました。今まで多くの本を読んできただけれど、これが自分を変えたなと思える本をまだ見つけておりません。

(1-12 古堅一成)

【2年】

1、法曹三者（裁判官、弁護士、検事）になるためには『司法試験』に合格しなければならないが、来年度から法科大学院制度が始まるので、その大学院を卒業しなければ司法試験を受けられなくなる（中略）"急がずに！ 休まずに！"が先生の好きな言葉ときました。

(2-1 内村みなみ)

2、チャンスはノックしろ、この言葉はとても印象的であった。

(2-2 真壁貴子)

3、「感動を受け、感動を与える人間たれ！！」というレインボーホテルの社是を教えてくれ、私もこのような精神をもちたいと考えた。

(2-3 大見謝歩)

4、大人になってからでも大学に入って新しい仕事につけるという話もあり、その人のやる気さえあれば何度もやり直せるんだなあと考えを改めさせられました。

(2-4 宮良怜奈)

5、自分の職業である弁護士は汚い仕事と言うのはすごみがあった。弁護士という職業を知り尽くしてやっていることに尊敬させられた。人の気持ちが分かる人だと思った。

(2-6 勝連幸織)

6、昔の那覇高校はとてもエリート校だったことに驚きました。部活動も文化系・体育系にかかわらずとても活発だったことを知って嬉しくなりました。

(2-8 大城千咲)

【3年】

1、先生はやはり自分のやりたいことを常に考えていて、いろんなクロスワードに立ちあっていました。その中で特に大事なこ

とは、あきらめないことと、可能性はいろいろな方向に無限にあるということでした。何かの誇大広告ではなく、本当に人生には可能性が沢山あることを感じそれに挑戦しないのはもったいないことだと思った。（3-4 赤田奈津子）

2、就職するまで一生懸命頑張る気持ちを忘れずやり続けることこそが大切だと思いました。「人の痛みが分かる人」という言葉が最も印象深く残りました。

(3-6 与那覇萌酢素)

3、グローバル化の進む21世紀の国際化の時代では異国との壁もますますなくなり、情報も次々と変化していきます。毎日新聞に目を通すことで、社会の変化を知りたいと思った。

(3-11 安次富文子)

4、高校の先輩が、このように郷土芸能という文化面で、海外を周って活躍しておられてうれしく思いました。高校時代には、私たちもしくは私たち以上に悩んだり、いろいろな方面に努力していたことをお聞きして、私たちももっと頑張らねば—と思われました。（3-13 大村倍音）

【講話をされた先輩】

() 内の数字は卒業期を示す

宮城 正廣(19)	高良 正勝(12)
松永 力也(34)	宮里 博史(21)
大田 和人(18)	島袋 鉄男(11)
花城梨枝子(23)	上江田捷博(26)
屋良 秀夫(12)	高良 鉄美(25)
名城 敏(20)	松田 節子(18)
大城 朋子(20)	玉城 節子(13)
高良ミチ子(12)	比嘉 秀一(48)
金城 和郎(31)	古堅 一成(32)
倉岡 大樹(49)	小渡 珍(23)
宮平 麗政(17)	八木 明達(17)
島袋 君子(21)	赤嶺 裕重(49)
宮里 孝三(10)	前泊 博盛(32)
松元 剛(37)	田積 あや(31)
金城 尚子(52)	真壁 貴子(31)
我喜屋 宏(12)	中井 健(21)
柴田 一郎(15)	稻泉 誠(31)
泉 健司(26)	神村 メイ(25)
島袋 隆(19)	新垣 剛(21)



会員寄稿

学問のすゝめ

永井 猛（那覇高16期）

子曰く、学んで時に之を習う、亦た悦しからずや。著者は大学勤務30余年にしてようやく、大学こそ「発明と発見の場・現代の楽園」であることを悟った。郷里沖縄には時代の矛盾が集中し楽園にはほど遠い状況にあることも重々承知しているが、たまには沖縄を訪れる旅人には「大自然が豊かに残る亜熱帯の島々」はそこを楽園と呼ぶことにいささかの躊躇もない。破壊者と戦い楽園を守ることは沖縄人を始めする現代日本人の主要課題であろう。沖縄に所在する全ての大学には自所を「楽園中の楽園」と標榜する資格があると思われる。

さて、福沢諭吉翁は「学問のすゝめ」によって、学問こそが人を人として自覚成長せしめ、我が国を西歐列強に伍する唯一の道であると説いた。中津藩下級武士の諭吉が1867年2度目のアメリカ旅行で、その国の「十三州独立宣言（1776.7.4）」に接し、民主主義の真骨頂を「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らずと言えり」と喝破したことはあまりにも有名。人は門閥家柄に関係なく只学問によって独立し、国を担うことが出来ると説いたのである。ならば学問を主業務とする大学こそ現代の聖地であり、生き甲斐を求める若者にとって聖なる修驗場でなくて何であろう。学問には必ず「発明と発見の悦び」があり、これを担う大学こそ現代の聖地・楽園であることに遅ればせながら気が付いた。

だが学問は奥深い。論語の一節に「子曰く、由や、女（なんじ）に之を知るを誨（おし）えんか、之を知るをば知ると為し、知らざるを知らずと為す、これを知れるなり」がある。学問の大敵は恐らく教条（ドグマ）であろう。学説は一度

定説として確立されるとたちまち教条となる性格を有している。論語読みの論語知らず、知らないことまで知っているように錯覚してしまう等はその由縁である。著者はその専門である物理学の一分野流体力学において、最近、一定説の誤りに気付くと云う希有の幸運に遭遇している。蓋し、大学においてこそ「批判の自由」が最も尊重されなければならない。

学問は時代や社会を見る眼を鍛える。日露戦争（1904）やむなしの世論が吹き荒れた時代、かの内村鑑三は次のように彼の確固とした平和主義を述べている。「余は日露非開戦論者であるばかりでない、戦争絶対的廃止論者である。戦争は人を殺すことである。そうして人を殺することは大罪悪である。大罪悪を犯して個人も国家も永久に利益を認め得ようはずはない」と。百年前、講話「デンマルク國の話」で、「富は有利化されたるエネルギー（力）であります。しかしエネルギーは太陽の光線にもあります。海の波濤（なみ）にもあります。吹く風にもあります。噴火する火山にもあります。もしこれを利用するを得ますればこれらは皆ことごとく富源であります。必ずしも英國のごとく世界の陸面六分の一の持ち主となるの必要はありません。デンマークで足ります。然り、それよりも小なる国で足ります。外に拡がらんとするよりは内を開発すべきであります」と述べたこの平和主義者の声は残念ながら時の指導者を動かすことはなかった。いやそれどころか、その後、我が国が未曾有の修羅場へと突き進んだのは周知の通り。

以上、本小文により、21世紀こそ知と平和が人々に普遍的に受入れられる時代となることを願う。

城岳同窓定期総会・懇親会

懇親会例年になく盛り上がる

平成16年度定期総会を5月22日（土）午後5時30分よりパシフィックホテルで開催した。宇良宗真会長が議長となり、議事録署名人嘉納勝氏（15期）、上江洲由哲（27期）で議事を進行した。例年通り、平成15年度事業報告、決算報告、16年度事業計画、予算審議が行われ、総会で承認された。

マンネリ化したこれまでの懇親会に新風を吹き込もうと、今年から「トゥシビー」を迎えた卒業期が実行委員長を引き受けたことになった。27期の上江洲由哲氏を委員長として25期～36期の会員で組織し（15人程度）、実行委員会を7回開き懇親会の内容などについて話し合った。

当日は古典音楽の大合唱で幕開けし、ジャズ演奏、東京往復の航空券をはじめ豪華な景品などで会場を盛り上げ、大先輩の二中卒のみなさんをはじめ432人の会員が出席し、お互いの交流も図られ、同窓会員の親睦の輪を広げた。

最後は来年の実行委員28期生の皆さんによる決意表明で幕を閉じた。



同期生会だより

那覇高校六期生会卒業50周年を祝う 勝連 哲司（那覇高6期）

那覇高校6期生会（山城順子会長）は、平成15年11月、那覇市内のホテルで卒業50周年と記念誌刊行の祝賀会を催しました。

6期生は、沖縄戦集結の混乱からようやく抜け出したころの昭和25年春に入学し、在学中、編入学生の急増に対応してのコンクリートブロック2階建て10教室の校舎建築に全員で取り組んだ輝かしい歴史？を持っています。卒業時470名を数えていた級友は、それから半世紀を経てすでに60名余が物故。大きな余替わりをいくつも経験した若者達は古稀を迎えます。

高校卒業の記念誌は、そうした想い出を冊子にまとめたいとの願望が、女性グループを中心的具体的な動きにな

り、取りかかりから1年4ヶ月で刊行することができました。80名余の方々のエッセイ、みんなから集めた写真など190頁の記念誌は、六期生の想い出集というだけでなく、沖縄のひとつの戦後資料にもなると考えています。

卒業50周年・記念誌刊行祝賀会には、米国在住や県外の方々22名を含めて236名が集まり、過去最高の盛り上がりになりました。

（壇上の写真は、海外・県外からの参加者）



50周年を記念して、城岳同窓会に寄付金を贈り(写真=山城六期生会長から宇良城岳同窓会長へ)、那覇高校には記念誌と、記念誌で使用した航空写真をお届けしました。

また、今年7月には、同期の安元健君(東北大学名誉教授)の恩賜賞・日本学士院賞受賞を記念した祝賀会と講演会が、トロピカルテクノセンター主催、城岳同窓会などの後援で那覇市内で開かれ、稲嶺県知事の祝辞や同期も舞踊家・神村真紀子さんの琉舞で華を添えていただきました。



野球部OB会が交流試合で汗

那覇高と首里高

那覇高野球部OB会と首里高野球部OB会の交流試合が25日、首里高石嶺球場で行われ、両校のOBが親交を深めた。

3、40代と50代以上の各2チームで対戦したが、好プレー、珍プレーの連続で、2試合とも首里高OBが制した。

同交流試合は現役の野球部員を励まそうと2000年から始め、今回で4回目。これまで、各OB会は野球ボールを各校野球部へ、10ダースずつ寄付してきた。

那覇高OBで第二試合で投手を務めた上地徹さん(57)は「この球場は、高校生の時に球

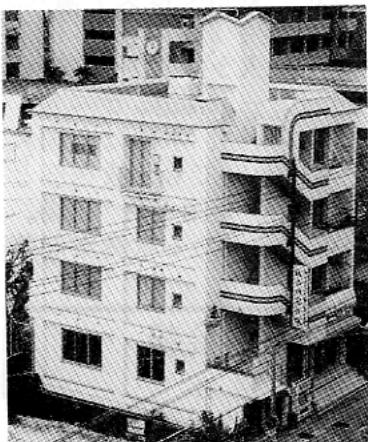
場開きでプレーして以来なので、感慨深い。高校時代を思い出す」と懐かしがった。

琉球新報より掲載 H16.4.30



交流試合で親ぼくを深めた那覇高、首里高野球部OB会(首里高石嶺球場)

事務局だより



平素より城岳同窓会のさらなる充実発展のために、ご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。同窓会は母校の発展に寄与することを目的として、奨学金の支給など教育活動を支援しています。しかし、同窓会予算がきびしいのが現状で、援助が困難であります。会費未納の会員は是非ご協力下さい。

年会費 1,000円、 終身会費(一括払い)5,000円

振込先 口座名義 城岳同窓会 会長 宇良宗真

琉球銀行 泊支店 店番306 口座番号 78-142

なお、同窓会館三階は会員の親睦の場としてクラス会、会議、趣味の集まりなどに利用しています。同窓会員のみの利用となっています。

※使用料(光熱費) 1団体 1時間600円



◇◇◇城岳同窓生としての「絆」を深く◇◇◇

那覇高等学校校長 名嘉山 興 武

城岳同窓会の会員の皆様に、ご挨拶を申し上げます。去る四月に四十年振りに母校の門

をくぐり同窓生として、「旧二中・那覇高校」の継承発展のため本校教育の一端を担う栄を得て感慨を深く致しました。

本校は、来る2010年には創立100周年を迎える県内屈指の伝統ある進学校として、有為な人材を輩出し、県内はじめ県外各界のリーダーとして活躍しております。その活躍は、本校で学ぶ生徒達にとってエールとなり、大きな誇りと精神的な支えとなっています。

生徒達も、校訓である「和衷協同」「積極進取」の精神に基づき、多感にしてかつ最も成長するこの時期を、城岳を望む楚辺(=二中→松尾)という地で、「文武両道」を校是に「剣と筆をかざしつつ、たゆまず進む学びの道」に精励しております。

これも、同窓をはじめ多くの父母、県民・地域の方々の本校に寄せる大きな期待と物心両面からなる支援があればこそと感謝の念で一杯です。とりわけ同窓会の事業を通して国外留学奨学資金、教育奨励

のほか先輩達が語る「城岳塾」「創立記念文化講演会」は、先輩と後輩の絆を深くし、伝統校で学ぶアイデンティティの醸成に繋がっています。

さて、ここ数年が本校の更なる発展を期すための絶好の機会、「ターニングポイント(=転換期)と捉えています。これまで敷かれていた「通学区制」が拡大され、那覇市全域、浦添、豊見城、西原にわたる高校の選択幅が広がり、学校も淘汰される時代となります。

したがって、高校においてはその存在感が問われ、社会の変化に対応し地域のニーズに応えられる「特色ある学校づくり」が求められます。また、節目を迎える本校にとっては草創の思いを顧みるとともに、「新しい学校改革の視点」も視野において学校づくりに務め、創立以来の教育理念と教育目標の実現を目指し、生徒・職員一丸となって、意気盛んな21世紀初頭の「ルネサンス」と位置づけ、頑張らなければなりません。

結びに、高邁な思想を持ち世界に伍する高き道を目指して邁進する後輩達に、今後とも同窓の諸先輩方のご指導をお願い申し上げます。

◇◇◇那覇高校ニュース◇◇◇

平成16年3月1日、第57回卒業式が挙行され、普通科476名、衛生看護科38名、計514名が卒業し、同窓会に入会した。特に、昭和41年からスタートした衛生看護科は、今回の卒業式で最後の卒業生を送り出し、38カ年間の幕を閉じた。

今回の卒業生の進路状況は、国公立71名、私大132名、短期大33名、専門学校114名、文科省管外9名で進学率69.7%。就職は4名であった。

県高校総体に本校は、15種目の競技に参加した。特に、サッカーが3年ぶりに決勝進出し、那覇西高校と対戦したが、PK戦で敗れる。その他、水泳で5種目が

1位、3種目が3位。剣道では女子個人2位、女子団体4位、空手道女子団体組手が3位、テニス女子個人シングル3位等が入賞。その内、サッカー、剣道、テニス、水泳等が九州派遣、剣道、水泳は全国大会へ出場。文化系においても、放送部と囲碁部が県内で健闘し、全国大会へ出場。その他、これから大会がある吹奏楽部等も期待が持たれる。

城岳同窓会会報

編集発行 城岳同窓会
〒900-0014 沖縄県那覇市松尾1-21-53
電話・FAX 098-867-2525